アラベッラ

2014.5/22 ～ 6/3

レパートリー
Repertory

Arabella

オペラパレス｜5回公演｜全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

初　演：1933年7月1日／ドレスデン／宮廷歌劇場
作　曲：リヒャルト・シュトラウス　Richard Strauss（1864-1949）
台　本：フーゴ・フォン・ホフマンスタール　Hugo von Hofmannsthal

プロダクションについて

『アラベッラ』で始まり、『アラベッラ』で終わる。2010年就任第1シーズンのオープニングを飾った思い出の作品を最終シーズンにぜひ再演したい、という尾高芸術監督の選んだ演目です。“誰もが最後は微笑んでしまう”この作品、舞台は300種類もの“青”で満たされた“光の魔術師”アルローの演出です。指揮はウィーン国立歌劇場などで活躍するベルトラン・ド・ビリーが新国立劇場初登場。11年『こうもり』ロザリンデを演じたアンナ・ガブラーがタイトルロール、ドラマティック・バリトンとして評判のヴォルフガング・コッホがマンドリカ、ズデンカは歌唱、演技、容姿の三拍子が揃ったアニヤ＝ニーナ・バーマン、マッテオにはリリック・テノールのスティーヴ・ダヴィスリムなど、充実したキャスティングが実現しました。

2010年公演より

あらすじ

【第1幕】19世紀末のウィーン。退役軍人のヴァルトナー伯爵は、賭博好きが高じて借金まみれとなり、一家は破産寸前。迷信深い妻のアデライデは占いの予言にすがるばかりである。伯爵には年頃の二人の娘、長女アラベッラと妹のズデンカがいたが、経済的理由から妹は男装させられ、世間に対してはズデンコという名の「弟」にさせられている。美貌のアラベッラには求婚者が後を絶たないが、長女を玉の輿に乗せようと望む両親の願いに叶う裕福な男は現れない。士官のマッテオも彼女に夢中だが、完全な片想い。ズデンカはマッテオに同情し、姉の筆跡を真似て何通もの色よい恋文を書いているうちに、ズデンカ自身がマッテオに熱い恋心を抱くようになる。マッテオは手紙の中のアラベッラと現実の冷淡な対応とのギャップに苦しむ。そこへ裕福な大地主マンドリカが現れる。
【第2幕】謝肉祭の最後の夜の舞踏会に現れたアラベッラにマンドリカは求婚。二人はすぐに運命的な結びつきを確信する。失恋を悟って自殺しかねないマッテオを救いたい一心で、ズデンカは姉の部屋の鍵だと偽って自分の部屋の鍵をマッテオに渡す。これを立ち聞きしたマンドリカは、アラベッラに裏切られたと怒りを爆発させる。
【第3幕】彼女と愛を交わしたと思い込んでいるマッテオに、本物のアラベッラは冷淡な対応で、マッテオは困惑を深める。マンドリカはアラベッラの不貞を責め、両親は侮辱に憤り、事態は混乱を極める。そこでズデンカが真実を告白。彼女の男装の秘密が明かされ、縁談を危うくさせた誤解も解け、ズデンカはマッテオと、アラベッラはマンドリカと結ばれる。

リヒャルト・シュトラウス
アラベッラ
Richard Strauss / Arabella
全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

指　揮 Conductor	ベルトラン・ド・ビリー Bertrand de Billy
演出・美術・照明 Production, Scenery, Lighting Design	フィリップ・アルロー Philippe Arlaud
衣　裳 Costume Design	森 英恵 Mori Hanae
ヴァルトナー伯爵 Graf Waldner	妻屋秀和 Tsumaya Hidekazu
アデライデ Adelaide	竹本節子 Takemoto Setsuko
アラベッラ Arabella	アンナ・ガブラー Anna Gabler
ズデンカ Zdenka	アニヤ=ニーナ・バーマン Anja-Nina Bahrmann
マンドリカ Mandryka	ヴォルフガング・コッホ Wolfgang Koch
マッテオ Matteo	スティーヴ・ダヴィスリム Steve Davislim
エレメル伯爵 Graf Elemer	望月哲也 Mochizuki Tetsuya
ドミニク伯爵 Graf Dominik	萩原 潤 Hagiwara Jun
ラモラル伯爵 Graf Lamoral	大久保光哉 Okubo Mitsuya
フィアッカミッリ Die Fiaker-Milli	安井陽子 Yasui Yoko
カルタ占い Eine Kartenaufschlägerin	与田朝子 Yoda Asako
合　唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2014年5月22日（木）6：30
25日（日）2：00
28日（水）6：30
31日（土）2：00
6月3日（火）2：00
オペラパレス

【チケット料金（税込）】
S：26,250円・A：21,000円・B：14,700円・C：8,400円・D：5,250円
【前売開始】2014年1月25日（土）

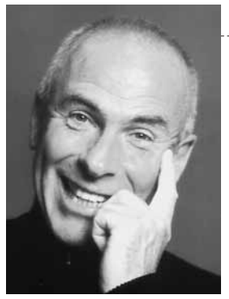
アラベッラ

Richard Strauss / Arabella

指揮：ベルトラン・ド・ビリー

Conductor : Bertrand de Billy

パリ生まれ。同市で音楽を学び、オーケストラ奏者としてキャリアを積んだ後、指揮に転向。1993年から95年までデッサウのアンハルト劇場で、96年から98年までウィーン・フォルクスオーパーでいずれも第一カペルマイスター（劇場専属指揮者）兼音楽監督代理、99年から2004年までバルセロナのリセウ劇場の音楽監督、02年から10年までウィーン放送交響楽団の音楽監督を歴任。バッハから現代作品にいたるまで幅広いレパートリーを誇り、特にオペラを得意とするため、これまでにウィーン国立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、モネ劇場、パリ・オペラ座、ワシントン歌劇場、ロサンゼルス・オペラなど世界中の一流歌劇場に出演している。1997年から定期的にメトロポリタン歌劇場に客演指揮者として招かれている。2002年からはザルツブルク音楽祭にも出演。また世界各地でオーケストラ指揮者としても活躍し、CDやDVDも数多くリリースされている。12年はウィーン国立歌劇場で『椿姫』『フィデリオ』『タンホイザー』『オテロ』を指揮。13年にはフランクフルト・オペラ『ローエングリン』（3月）、ウィーン国立歌劇場『ウェルテル』（4月）、『カルメン』（5月）、バイエルン州立歌劇場『シモン・ボッカネグラ』（6月）、ミュンヘン・オペラ・フェスティバル『ナクソス島のアリアドネ』などが予定されている。日本では07年ウィーン放送交響楽団公演で初来日、12年2月にはNHK交響楽団定期公演に出演し好評を博している。新国立劇場初登場。



演出・美術・照明：フィリップ・アルロー

Production, Scenery, Lighting Design : Philippe Arlaud

パリ生まれ。ストラスブール国立劇場演劇大学で演出、舞台美術、美術史を学ぶ一方で、ストラスブール大学医学部で精神医学を修め、外科医の資格も持つ。これまでにパリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、マリインスキー劇場といった世界の一流歌劇場や、ブレゲンツ、スポレートなどの音楽祭で『ドン・ジョヴァンニ』『チェネレントラ』『トリスタンとイゾルデ』『影のない女』『ルサルカ』などの演出、舞台美術、照明を手がける。2002年から07年までバイロイト音楽祭で『タンホイザー』を演出。12年にはスロヴェニア国立マリボル劇場、香港オペラ、上海オペラの共同制作『カルメン』を手掛けている。新国立劇場では03年『ホフマン物語』の演出・美術・照明を担当。“光の魔術師”の異名にたがわぬ鮮烈な視覚効果で、作品の幻想性を浮き彫りにした。さらに05年『アンドレア・シェニエ』に続き2010/2011シーズンオープニングの『アラベッラ』新演出で再登場し観客を魅了した。2013/2014シーズンには、今回の再演のほかに『ホフマン物語』が8年ぶりに上演される。

アラベッラ

Richard Strauss / Arabella

ヴァルトナー伯爵：妻屋秀和

Graf Waldner : Tsumaya Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学院オペラ科修了。1994年から2001年までライプツィヒ歌劇場、02年よりワイマールのドイツ国民劇場の専属歌手。今までに、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、デュッセルドルフ歌劇場、スコティッシュ・オペラなどに出演。『魔笛』ザラストロ、『トゥーランドット』ティムール、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵などを主なレパートリーとする。新国立劇場には『アイーダ』『ファルスタッフ』『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『ラインの黄金』『ジークフリート』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『オテロ』『ヴォツェック』『アラベッラ』など多数出演。最近では2011/2012シーズンの『イル・トロヴァトーレ』フェルランド、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、2012/2013シーズンは『セビリアの理髪師』ドン・バジリオに出演。『アイーダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの司祭長、『夜叉ヶ池』鉱蔵にも出演予定。2013/2014シーズンは『リゴレット』スパラフチーレ、『カルメン』スニガ、『ヴォツェック』医者でも出演予定。藤原歌劇団団員。

アデライデ：竹本節子

Adelaide : Takemoto Setsuko

大阪音楽大学卒業。これまでに『カルメン』タイトルロール、『ファルスタッフ』クイックリー夫人、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『チェネレントラ』タイトルロールなどを演じる。マーラー『復活』、ヴェルディ『レクイエム』などのソリストとしても活躍、東京都交響楽団をはじめ、国内の主要オーケストラのソリストとしても出演を重ね、デプリースト、セゲルスタム、ロジェストベンスキーなど、多くの著名な指揮者から確かな実力を認められている。新国立劇場では『フィガロの結婚』マルチェッリーナ、『アンドレア・シェニエ』マデロン／コワニー伯爵夫人、『さまよえるオランダ人』マリー、『神々の黄昏』第一のノルン、『アラベッラ』アデライデなどに出演。2013/2014シーズンは『フィガロの結婚』マルチェッリーナでも出演予定。二期会会員。

アラベッラ：アンナ・ガブラー

Arabella : Anna Gabler

ミュンヘン生まれ。ミュンヘン音楽大学在学中にバイエルン州立歌劇場のヤング・アーティスト・プログラムのメンバーとなる。2001/2002シーズンから3年間ライン・ドイツ・オペラ、2005/2006シーズンから3年間ニュルンベルク歌劇場の専属として研鑽を積む一方で、バイエルン州立歌劇場『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、『魔笛』第一の侍女などに出演。2006年にはドレスデン州立歌劇場にカタリーナ・タールバッハ演出の新制作『ヘンゼルとグレーテル』グレーテルでデビュー、08年『魔弾の射手』アガーテ、09年のヒンデミット『カルディヤック』（新制作）にも出演。バイロイト音楽祭には07年以降『ワルキューレ』オルトリンデで出演、09年にはバイロイト音楽祭の新企画であるこども向け作品『さまよえるオランダ人』でゼンタを演じた。パリ・シャトレ座『声にようこそ』ノルマの亡霊、モネ劇場『エレクトラ』第五の侍女など、ヨーロッパを中心に活躍。11年のグラインドボーン音楽祭には『ニュルンベルクのマイスタージンガー』エーファ、ハンブルク州立歌劇場『神々の黄昏』グートルーネ、フランクフルト・オペラ『恋愛禁制』マリアンナなどに出演。13年はボローニャ歌劇場『さまよえるオランダ人』ゼンタ（3月）、ハンブルク州立歌劇場『ラインの黄金』グートルーネ（6月）、ザルツブルク音楽祭『ニュルンベルクのマイスタージンガー』エーファに出演予定。新国立劇場には11年『こうもり』ロザリンデで初登場、舞踏会シーンでは美しい舞台姿と演技力、歌唱力で観衆を魅了した。

ズデンカ：アニヤ＝ニーナ・バーマン

Zdenka : Anja-Nina Bahrmann

ドイツ・ジークブルク生まれ。デュッセルドルフ大学で学ぶ。2006年エッセン・アールト劇場『バスティアンとバスティエンヌ』でオペラデビューを果たすなど、学生時代からライン・ドイツ・オペラとエッセン・アールト劇場に出演。06年から09年までリンツ州立歌劇場の専属歌手として、『オルフェオ』エウリディーチェ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『仮面舞踏会』オスカル、『フィガロの結婚』スザンナ、『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタなどに出演。09年にウィーン・フォルクスオーパーの専属となり、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、『こうもり』アデーレ、『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、『魔笛』パミーナ、『後宮からの誘拐』コンスタンツェなどに出演、確かな歌唱力に加え、演技力、美しい舞台姿で好評を博す。10年には『ルクリーシアの陵辱』、11年にグラインドボーン音楽祭に『ルサルカ』第一の森の精でデビュー。12年にはミュンヘン・オペラ・フェスティバル『ポンテの王ミトリダーテ』アスパジアでデビュー後、バイエルン州立歌劇場『ドン・パスクァーレ』ノリーナに出演。13年にはウィーン・フォルクスオーパー『セビリアの理髪師』ロジーナ（1月）に出演。新国立劇場初登場。

マンドリカ：ヴォルフガング・コッホ

Mandryka : Wolfgang Koch

ドイツ・ニュルンベルク生まれ。ミュンヘン音楽大学で声楽を学ぶ。ベルン市立歌劇場、シュトゥットガルト歌劇場、ウィーン・フォルクスオーパーの専属歌手としてキャリアを積む。2006年にフランクフルト歌劇場で『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・ザックスで好評を博し、同歌劇場ではその後ライマン『リア王』タイトルロール、『アラベッラ』マンドリカ、プフィッツナーの『パレストリーナ』枢機卿ボロメオなどに出演。08年にはハンス・ザックスでウィーン国立歌劇場にデビューし、その後も『ローエングリン』テルラムント、『サロメ』ヨハナーンなどを歌っている。他にもハンブルク州立歌劇場やバイエルン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラで『ニーベルングの指環』アルベリヒ、ザルツブルク音楽祭で『影のない女』バラクなどに出演。ワーグナーイヤーである13年はドレスデンのザクセン州立歌劇場『ローエングリン』テルラムント（1月）、ローマ歌劇場『ラインの黄金』ヴォータン（2月）、ザルツブルク・イースター音楽祭『パルジファル』アンフォルタスとクリングゾール、ミュンヘン・オペラ・フェスティバル『ジークフリート』アルベリヒ、バイロイト音楽祭『ニーベルングの指環』ヴォータンなど、数多くのワーグナー作品に出演が予定されている。新国立劇場初登場。

マッテオ：スティーヴ・ダヴィスリム

Matteo : Steve Davislim

オーストラリア出身。ホルンを学んだ後、ヴィクトリア・カレッジ・オブ・アーツで声楽を学ぶ。チューリヒ歌劇場の専属歌手としてキャリアをスタート。これまでにベルリン州立歌劇場『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、ウィーン国立歌劇場『魔笛』タミーノ、ドレスデンのザクセン州立歌劇場『放蕩者のなりゆき』トム、ハンブルク州立歌劇場『エウゲニ・オネーギン』レンスキー、『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵と『放蕩者のなりゆき』トム、ミラノ・スカラ座『イドメネオ』タイトルロールと『魔笛』タミーノ、英国ロイヤルオペラ『ファルスタッフ』フェントン、パリ・シャトレ座『オベロン』タイトルロール、メトロポリタン歌劇場『後宮からの誘拐』ペドリロ、オーストラリア・オペラ『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオと『エウゲニ・オネーギン』レンスキー、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ダーヴィットなど世界各地に出演。最近では、ジュネーヴ歌劇場でマルティヌーの『ジュリエット』ミシェル、ザクセン州立歌劇場『皇帝ティートの慈悲』タイトルロールなどに出演。2013年はザクセン州立歌劇場『皇帝ティートの慈悲』タイトルロール（2月）、バーゼル・オペラ『イドメネオ』タイトルロール（4月）などに出演が予定されている。新国立劇場初登場。

主要キャスト・スタッフプロフィール
アラベッラ
Richard Strauss / Arabella

フィアッカミッリ：安井陽子

Die Fiaker-Milli : Yasui Yoko

桐朋学園大学卒業、同大学研究課修了。二期会オペラスタジオ修了。その後文化庁在外研修員としてウィーンに留学。ウィーン国立音楽大学研究課声楽科を修了。オーストリア在住中、クラーゲンフルト劇場のヘンツェ『若き貴族』イーダでヨーロッパデビュー。その後、フォアアールベルク音楽劇場『魔笛』夜の女王、ブレゲンツ音楽祭およびザンクトペルテン音楽祭のオッフェンバック『青ひげ』ロザリンデで好演。いずれの公演も高い評価を得た。2008年東京二期会公演『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタで国内本格デビュー、コロラトゥーラの見事な歌唱と豊かな音楽表現で一躍注目を浴びる。『魔笛』夜の女王では新国立劇場をはじめ日生劇場、東京二期会オペラ劇場などで高度なテクニックを披露し存在感を示した。新国立劇場では『魔笛』夜の女王、『ジークフリート』森の小鳥、『鹿鳴館』顕子に出演し好評を博したほか、11年4月『ばらの騎士』でカヴァーとしてキャスティングされていたゾフィーで急遽本公演に立ち、見事な歌唱で喝采を浴びた。13年4月に『魔笛』夜の女王で再登場する。二期会会員。